

地域を愛し、自立と共生ができ、未来を創る子ども

直東学園ニュース

直江津東中学校区すこやかネットワークだより

令和7年度 第8号
令和8年1月25日発行
<発行・編集>
直東学園 事務局
〒942-0041
新潟県上越市安江282-1
(上越市立直江津東中学校内)
TEL : 025-543-2729
FAX : 025-543-4150
E-mail : higashi-cs@jorne.or.jp

日常生活の中にある差別に気付き、 差別をなくすために行動しようとする子どもの育成

直江津東中学校区では昨年度、各校の同和教育主任を中心に、小中9年間を見通した同和教育の指導計画（同和教育基底計画）の見直しを行いました。今年度は改訂された基底計画による指導の1年目に当たります。各校では、新しい指導計画の下、気持ちも新たに日々の授業を実践しています。直東学園同和教育部では今年度も以下ように取り組んでいます。

【直東学園 同和教育部の取組】

◎ 活動目標

日常生活の中にある差別に気付き、差別をなくすために行動しようとする子どもの育成

◎ 主な取組

- 1 同和教育基底計画（小中9年間を見通した同和教育の実施計画）に基づいた授業実践
- 2 各校における同和教育研修会及び現地学習会の実施
- 3 小学校6年生を対象にした人権教育、同和教育講演会の実施
- 4 家庭・地域と連携した人権教育、同和教育講演会等の実施

小学校6年生を対象にした人権教育、同和教育講演会の実施

10月30日（木）に4小学校の6年生を対象に、徳島県からお越しいただいた【絆創膏の会 大湾 昇さん】による講演会を、有田小学校を会場に行いました。「差別とは努力しても変えられないところや変える必要がないところに対して、悪意をもって攻撃すること、もしくは悪意がなくても傷つける行為」であることを、心理テストやこれまでに大湾さんが会っててきた人たちとのことを交えながらわかりやすくお話しいただきました。「差別は誰も得をしません」との言葉は、子どもたちの心に強く残ったことでしょう。

「いじめた子はいじめたことを忘れるし知らないふりをするが、いじめられた子は決して忘れない」。大湾さんは、いじめられていた子に深くかかわった経験があります。この経験談からは、いじめなどで悩んだり苦しんだりしている人を励ましたい、助けてあげたい、そんなまっすぐな思いが伝わってきました。



北諏訪小学校の取組



人権教育、同和教育は子どもたちの日常から大切に取り組むこととして意識してきました。11月には全校できずな集会を実施。6年生を中心に、異学年集団で温かい関係をつくるために大切にすることを伝え合いました。仲間の声に耳を傾け、うなずきながら聴く優しい子どもたちでした。

その後、ピンポン玉リレーをしました

玉を運ぶ仲間のそばについて一緒に歩き、応援をし続けるというユニークできずな集会らしいアレンジが加わったものです。子どもたちはいつものリレーとは違う一体感を味わって



いました。



最後は、全校62名の児童が大きな輪になって手をつなぎ、「すてきな友だち」を大合唱しました。“いつもすてきな友だちとこの手をつなぐのさ” “いつもすてきな友だちと微笑みを交わすのさ” 歌詞の通りに、子どもたちの優しさがこの先もずっと続していくよう、みんなで温かい気持ちをつないでいこう、と改めて確認した会になりました。

保倉小学校の取組



11月19日（水）、「ほくら人権の日」として、学習参観、講演会を実施しました。全クラスが人権教育、同和教育の公開授業を行い、低学年は決めつけや仲間外し、中高学年は偏見や部落差別問題を題材に、具体的な場面を捉えて考えを深めました。また、直東学園主催の講演会では、新潟お笑い集団NAMARAの森下英矢様を講師に、「人にやさしく」を演題にして、北諏訪小学校の5・6年生、学校運営協議会の委員の皆様、保護者の方と一緒にお話を聞きました。「一人ひとりの言葉が誰かの人生を変えている」「前向きの言葉をかけたほうがよい」「いろいろな考え方の人が世の中にいる」など、森下さんからは、映像やパフォーマンスを交えて分かりやすく楽しく教えていただきました。

講演会や学習題材を通して、「自分だったらどうする？」と自分に置き換えることで、当事者意識が生まれてきます。差別された方の悲しみや苦しみを知ってこそ、人権を守ることの大切さが理解できます。この日の取組を含め、保倉小では年間を通じて人権教育、同和教育を進めていきます。



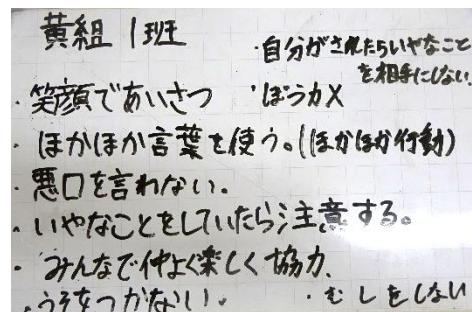
有田小学校の取組

「自分もみんなも大切にする子どもの育成」を重点目標に定めて3年目となりました。今年度は、「スポフェス 2025（運動会）」において、差別や子ども同士の分断を生み出さないように、種目内容を見直してきました。例えば「徒競走」を走力重視の「RUNラン」と運に左右される「じゃんけんラン」に分けました。二つの競走の仕方を取り入れることで、児童が自分の持ち味に応じて自己選択・自己決定する場を保障することができました。参加した児童は、どちらの種目においても、いきいきと走っていました。

7月、人権学習や部落問題学習の授業を保護者に公開しました。さらに11月には、CSの皆さんから人権学習の公開授業だけでなく協議会にも参加していただきました。子どもたちの授業や協議会の様子から、「真剣に考えている子どもの姿が印象的だった」「人権の問題は、学校だけでなく地域や家庭でも考えるもの」「授業を行うために、ものすごい労力がかかっていることが分かった」と感想を話されました。

10月、新潟県人権啓発キャラバン「なかよしスマイルハート集会」を実施しました。「なかよし班」(異学年による縦割り班)ごとに「いじめのない有田小学校にするためには、どんなことが大切か」考えました。

人権学習・部落問題学習、集会活動で得た学びを生かし、「自分とみんなも大切にする子」の育成ができるように、保護者・地域の皆さんと協力をしながら、今後も取り組んでいきます。



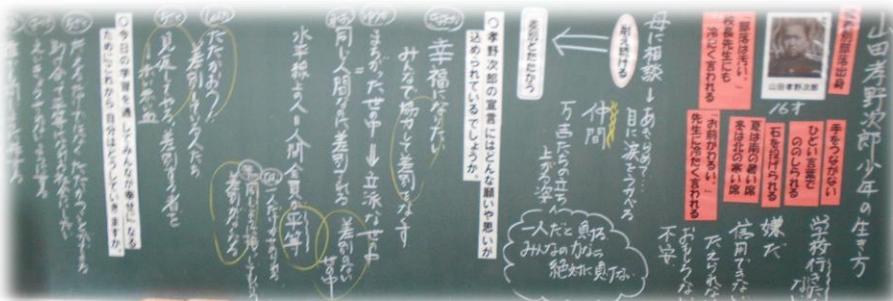
「なかよし班」で考えた意見

春日新田小学校の取組

今年度も、授業を中心とした人権教育、同和教育の推進を図ってきました。

夏季休業中には、『授業づくり研修』を行いました。ここでは、各学年で児童の実態を基にして資料を選定し、実際に指導案を作成しました。その際、児童の学びを深めるため、発問や提示する資料作り等も行いました。また、『県同和教育研究集会オンライン研修』、『現地学習会』に多くの職員が参加し、差別の現実に憤りを感じたり、自身の人権感覚を高めたりしてきました。

2学期には、人権教育、同和教育部と6学年部が連携した部落問題学習を行いました。当校全職員と共に、上越市教育委員会の指導主事が参観し、授業後には協議会を行いました。児童の姿に基づいて意見を交流することで、教職員の人権感覚が養われると共に、人権教育、同和教育の指導力の向上につながりました。今後も、部落問題学習を実践しながら、部落問題学習年間計画を精緻化するとともに、部落問題をなくしたいという思いを強め、偏見や差別をなくすための人や社会の在り方について考える児童を育んでいけるよう、全職員で研修に努めていきます。



直江津東中学校の取組

東中では毎年 11 月から 12 月を『人権強調月間』と位置づけ、生徒と職員が一緒になって、人権について考え、学んでいます。『人権強調月間』の取組を紹介します

行事の振り返り、専門委員会の取組

体育祭、音楽祭では、振り返り活動の中で、クラスメイトに感謝の気持ちを伝えました。また、「いじめ見逃しぜロ」に向け、各専門委員会はそれぞれの目的に沿った独自の企画を考案し、実行に移しました。

いじめ見逃しぜロスクール集会

11月20日（木）に小・中合同いじめ見逃しぜロスクール集会を開催しました。感染症対策のため、各学校をリモートでつないで行う集会になりました。講師の藤田先生（上越市教育委員会）から身近な内容である「ネットいじめ」を取り上げていただき、学びを深めることができました。



人権教育、同和教育の授業実践

東中学校では、年2回、全クラスでの「生きるIV」を用いた授業実践を行い、人権意識を育み、差別を許さない実践的態度の育成を図っています。また、全職員参加による授業研修会も実施しています。

授業研修会では、結婚差別事件を取り上げた授業を参観し合いました。授業ではいまだ続く差別事件について、人ごとではなく自分事としてとらえるために、生徒に自分はどう行動するか考えさせました。生徒からは「まずは自分の中の差別をなくしたい。そして、差別する人を止めたい」「差別は絶対に許されることではない」「差別は人がするものだから、なくすのも人だ」など、前向きな考えがたくさん出されました。この授業をもとに全職員で授業づくりについて意見交換を行いました。今後も全校体制で取り組んでいきます。

直東学園 5年生マスコミ学習

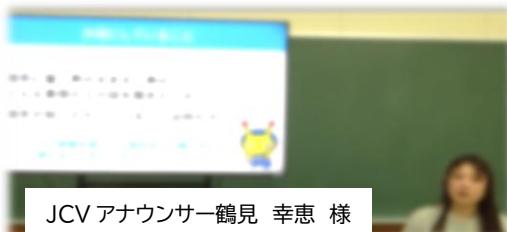
本学習は、直江津東中学校区（直東学園）のキャリア教育の一貫として取り組んでいる活動です。J C V のアナウンサー鶴見幸恵様と、新潟日報上越支社の記者 平形凪紗様のお二人に講師として来ていただきました。本来であれば、保倉小学校、北諏訪小学校、有田小学校、春日新田小学校の5年生が春日新田小学校の体育館に集まって行う予定でしたが、今年度は、インフルエンザが流行したため、参考することなく、春日新田小学校で録画した映像をもとに、各校で学習を行うことにしました。

お二人からは、仕事の内容や努力していること等について話していただきました。その後、お二人と廣井校長による、Q&A 形式のてい談会が行われました。

各校で学ぶ子どもたちにとって、本学習が自身の生き方の参考になることと考えています。それと共に、現在学んでいることが未来の自分につながっていることを感じてもらえたなら嬉しく思っています。



春日新田小学校での学習の様子

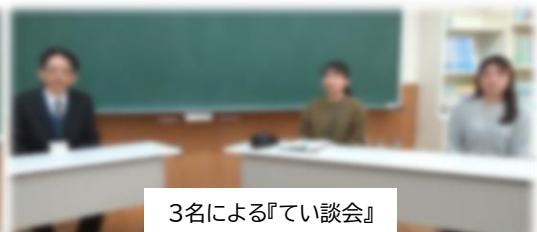


JCV アナウンサー鶴見 幸恵 様



新潟日報上越支社

記者 平形 凪紗 様



3名による『てい談会』